全農 JA全農いばらき

営農 News

令和 7 年 5 月 9 日 Newsletter 第 3243 号

ネギの微小害虫の防除を徹底しましょう！

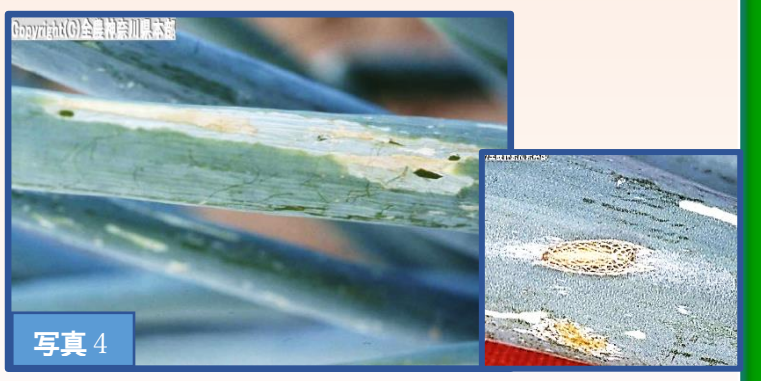
ネギの微小害虫には①葉に白い斑点を生じる**ネギアザミウマ**（写真１）、②葉に白い筋を生じる**ネギハモグリバエ**（写真２）があります。最近ネギハモグリバエでは従来と異なる別系統が出現し、激発すると、葉が白化し著しい被害（写真３）になるため問題となっています。さらに、③不規則な白斑や透明斑ができ穴が開く**ネギコガ**（写真４）があります。また、**アブラムシ類**は、春と秋に寄生が多くなり、ウイルス病の媒介虫となりますので注意が必要です。

これらの**微小害虫は、高温少雨の気象条件で多発生する傾向があります。多発生すると防除を実施しても効果が劣ります**ので、**発生初期～少発生のうちに防除を徹底してください。**

ネギアザミウマによる被害と成虫（右上）

従来のネギハモグリバエによる被害と成虫（右上）

ネギハモグリバエ別系統による被害



ネギコガによる被害と蛹（右）

（写真１、２　茨城県病害虫防除所）

＜防除のポイント＞

1．アザミウマ類など微小害虫は増殖速度が速いため、**発生初期に短期間（一週間程度）で 2～3 回集中して農薬散布を行う**と効果的といわれています。なお、抵抗性を助長させないために分類（コード）の異なる薬剤でローテーション散布を行い、散布後は必ずそれぞれの防除効果を確認してください。

2．**ネギは、薬液の付着しにくい作物**ですので、薬液が付着しやすいよう、**展着剤を加用**してください。また、微小害虫は下葉や葉鞘のすき間など薬液のかかり難いところに生息するため、十分な量の薬液で株全体に散布することが重要です。

表1　ネギのネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ネギコガ、アブラムシ類の主な防除薬剤　（令和 7 年 5 月 9 日現在）

薬　剤　名	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ	ﾈｷﾞﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	ﾈｷﾞｺｶﾞ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	使用量または希釈倍数	使用時期　／　使用回数	分類
ベリマークＳＣ	○	○	○		400 倍（0.5ℓ/ｾﾙﾄﾚｲ等※灌注）	育苗期後半～定植当日／1 回	28
	アザミウマ類	ハモグリバエ類			2,000 倍（0.5ℓ/㎡株元灌注）	収穫 7 日前まで／1 回	
スタークル顆粒水溶剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	○		50 倍（0.5ℓ/ｾﾙﾄﾚｲ等※灌注）	定植前日～定植時／1 回	4Ａ
ベストガード粒剤	○	○			5g/培土ℓ（育苗培土混和）	は種時／1 回	4Ａ
					6 kg/10a（植溝処理土壌混和）	定植時／1 回	
	○				50g/ｾﾙﾄﾚｲ等※(使用土壌約 3～4ℓ) 散布	育苗期後半～定植当日／1 回	
	○	○			6 kg/10a（株元処理）	収穫前日まで／3 回以内	
ディアナＳＣ	○アザミウマ類	○	○		2,500～5,000 倍	収穫前日まで／2 回以内	5
ベネビアＯＤ	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	○		2,000 倍	収穫前日まで／3 回以内	28
アグリメック	○アザミウマ類	○			500～1,000 倍	収穫 3 日前まで／3 回以内	6
アクタラ顆粒水溶剤	○	○			1,000～2,000 倍	収穫 3 日前まで／3 回以内	4Ａ
ファインセーブフロアブル	○アザミウマ類				1,000～2,000 倍	収穫 3 日前まで／2 回以内	34
		○			2,000 倍		
プレバソンフロアブル 5		○ハモグリバエ類	○		2,000 倍	収穫 3 日前まで／3 回以内	28
ハチハチ乳剤	○アザミウマ類	○	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで／2 回以内	21Ａ
グレーシア乳剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	○		2,000～3,000 倍	収穫 7 日前まで／2 回以内	30
リーフガード顆粒水和剤	○	○	○		1,500 倍	収穫 7 日前まで／2 回以内	14
マッチ乳剤	○				2,000 倍	収穫 7 日前まで／3 回以内	15
スミチオン乳剤	○アザミウマ類				700～1,000 倍	収穫 14 日前まで／2 回以内	1Ｂ
			○		1,000 倍		
				○	1,000～2,000 倍		
ダイアジノン乳剤 40	○アザミウマ類				700～1,200 倍	収穫 21 日前まで／2 回以内	1Ｂ
		○			1,000～2,000 倍		
			○	○	1,000 倍		

注）1. ※印は、セル成型育苗トレイ１箱またはペーパーポット１冊（30×60cm・使用土壌約 1.5～4ℓ）を略しました。
2. 薬剤の中には、上記処理以外の登録もあります。**各薬剤の成分別総使用回数を超えないよう十分に注意してください。**
3. 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。

■ 営農 News はＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部　営農支援課　　電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040